註

第一章

第一節

（１）

その際、相対主義一般に関するものとして、以下の書物を参考にした。特に、第一章で扱うさまざまな種類の相対主義についての言及は、これらの書物を参照している。

Rom Harré and Michael Krausz, *Varieties of Relativism,* Oxford, UK/Cambridge, Massachusetts: Blackwell, 1996. 、James F. Harris, *Against Relativism, A Philosophical Defense of Method,* Chicago and La Salle, Illinois:Open Court, 1992. 、Maurice Mandelbaum, "Subjective, Objective, and Conceptual Relativisms, " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. , *Relativism, Cognitive and Moral,* Notre Dame, Indiana/London:University of Notre Dame Press, 1982, pp. 34-61. （常俊宗三郎訳　「主観的、客観的、および概念的相対主義」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、６０－１１０ページ。）、Harvey Siegel, *Relativism Refuted, A Critique of Contemporary Epistemological Relativism (Synthese Library Volume 189),* Dordrecht/Boston/Lancaster/Tokyo:D. Reidel Publishing Company, 1987. 、Chris Swoyer, "True For, " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. , *Relativism, Cognitive and Moral,* Notre Dame, Indiana/London:University of Notre Dame Press, 1982, pp. 84-108. （戸田省二郎訳　「…にとっての真」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、１５２－２０１ページ。）

第二節

（１）

後に詳しく論じるクワインやクーンの考え方が、その論争に大きな影響を与えている。

第三節

（１）

廣松渉・子安宣邦・三島憲一・宮本久雄・佐々木力・野家啓一・末木文美士編　『岩波哲学・思想辞典』　東京：岩波書店、１９９８年、２１１ページ。

（２）

Simon Blackburn, *The Oxford Dictionary of Philosophy*, Oxford, UK/New York:Oxford University Press, 1994, p. 72.

（３）

Donald Davidson, "On the Very Idea of a Conceptual Scheme, " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. , *Relativism, Cognitive and Moral*, Notre Dame, Indiana/London:University of Notre Dame Press, 1982, p. 66.　第三章、第一節、註（１）参照。

第二章

第一節

（１）

W. V. (O.) Quine, *Pursuit of Truth*, rev. ed. , Cambrige, Massachusetts/London, England:Harvard University Press, 1992, p. vii. ここでの指示対象という訳語は reference に対して当てられている。それは今後も同じである。しかし、指示対象と訳すからといって、常に単称名辞が示しているものだけを考えているのではない。語の外延という意味で使っている。ただし、後に出てくる〈指示の不確定性〉、〈指示の不可測性〉というテーゼに関しては、reference を指示と訳すのが一般的だと思われるので、混乱を避けるために、指示と訳すことにする。

（２）

W. V. (O.) Quine, *Pursuit of Truth*, rev. ed. , Cambrige, Massachusetts/London, England:Harvard University Press, 1992. （伊藤春樹・清塚邦彦共訳　『真理を追って』　東京：産業図書、１９９９年。）以下、W. V. (O.) Quine, *Pursuit of Truth* と略。

（３）

W. V. O. Quine, *From a Logical Point of View, 9 Logico-Philosophical Essays*, 2nd rev. ed. , Cambrige, Massachusetts/London, England:Harvard University Press, 1961. （飯田隆訳　『論理的観点から：論理と哲学をめぐる九章』　東京：勁草書房、１９９２年。）以下、W. V. O. Quine, *From a Logical Point of View* と略。

（４）

W. V. O. Quine, *Word and Object*, Cambridge, Massachusetts:The MIT Press, 1960. （大出晃・宮館恵共訳　『ことばと対象』　東京：勁草書房、１９８４年。）以下、W. V. O. Quine, *Word and Object* と略。

（５）

W. V. (O.) Quine, *Ontological Relativity and Other Essays*, New York:Columbia University Press, 1969. 以下、W. V. (O.) Quine, *Ontological Relativity and Other Essays* と略。

（６）

W. V. (O.) Quine, *Pursuit of Truth*, p. 3.

（７）

Ibid. p. 42.

（８）

W. V. (O.) Quine, "Epistemology Naturalized, " in *Ontological Relativity and Other Essays*, pp. 69-90. （伊藤春樹訳　「自然化された認識論」　『現代思想』　第１６巻第８号（１９８８年)、４８－６３ページ。）以下、W. V. (O.) Quine, "Epistemology Naturalized" と略。

（９）

W. V. (O.) Quine, "Epistemology Naturalized, " p. 80.

（１０）

W. V. (O.) Quine, *Pursuit of Truth*, pp. 47-48.

（１１）
W. V. O. Quine, *Word and Object*, p. 27.
（１２）
これについては、問題もある。その問題となぜ私がこれらの言葉を同様に扱うかについては、註（２３）参照。
（１３）
W. V.（O.）Quine, *Pursuit of Truth*, p. 50.
（１４）
Ibid. p. 52.
（１５）
Ibid. pp. 13-14.
（１６）
W. V. O. Quine, "Two Dogmas of Empiricism, " in *From a Logical Point of View,* pp. 20-46.（飯田隆訳　「経験主義のふたつのドグマ」　飯田隆訳　『論理的観点から：論理と哲学をめぐる九章』所収　東京：勁草書房、１９９２年、３１－７０ページ。）以下、W. V. O. Quine, "Two Dogmas of Empiricism"と略。
（１７）
W. V. O. Quine, "Two Dogmas of Empiricism, " p. 41.
（１８）
Ibid. p. 43.
（１９）
W. V.（O.）Quine, *Pursuit of Truth*, p. 98.
（２０）
Ibid. p. 101.
（２１）
Ibid.
（２２）
Ibid. p. 102.
（２３）
『真理の探究』の第三章の意味について扱っているところで、クワインは、自分が考えていなかった存在論的相対性と指示の不可測性の区別をしようとした読者がいたと述べている。（W. V.（O.）Quine, *Pursuit of Truth*, p. 51. 参照）また、同じことは、初版（W. V.（O.）Quine, *Pursuit of Truth*, Cambrige, Massachusetts/London, England:Harvard University Press, 1990, p. 51.）でも述べられている。そして、先に引用したように、存在論的相対性は、翻訳のマニュアルに関係していると言われている。したがって、改訂版で、［信管を取り除かれた存在論］という題になったことは、そのことと関係しているとも考えられる。しかし、クワインがここで呼び名を変えているとしても、それは、彼自身、以前は意識していなかったものである。したがって、少なくとも以前の論文では区別されていなかったものであると考えられる。そして、ここでは、『真理の探究』以前に書かれた『存在論的相対性』という論文も考察の対象としている。そのうえ、改訂版の［信管を取

り除かれた存在論］の趣旨と初版の［存在論的相対性］における趣旨は同じものである。それゆえ、〈彼自身が、存在論的相対性と指示の不可測性を区別しているのか〉、〈しているとしたらどのように区別しているのか〉が、大きな問題であるとしても、ここでは、理論に関する場合も、〈存在論的相対性〉という言葉を使ってかまわないだろう。『真理の探究』におけるそれらの区別をめぐる問題は、また、機会を別にして論じられる必要がある。

（２４）

W. V.（O.）Quine, *Pursuit of Truth*, p. 31.

（２５）

Ibid. p. 33.

（２６）

Ibid. p. 25.

（２７）

Ibid. p. 26.

（２８）

W. V.（O.）Quine, "Existence and Quantification, " in *Ontological Relativity and Other Essays*, pp. 91-113. 以下、W. V.（O.）Quine, "Existence and Quantification"と略。

（２９）

W. V.（O.）Quine, "Existence and Quantification, " p. 96.

第二節

（１）

Thomas S. Kuhn, *The Structure of Scientific Revolutions*, 3rd ed. , Chicago/London:The University of Chicago Press, 1996. ただし、初版は、１９６２年。（中山茂訳　『科学革命の構造』　東京：みすず書房、１９７１年。）以下、Thomas S. Kuhn, *The Structure of Scientific Revolutions* と略。

（２）

Thomas S. Kuhn, "Second Thoughts on Paradaims, " in *The Essential Tension, Selected Studies in Scientific Tradition and Change*, Chicago/London:The University of Chicago Press, 1977, pp. 293-319. （佐野正博訳　「パラダイム再考」　安孫子誠也・佐野正博共訳　『本質的緊張２：科学における伝統と革新』所収　東京：みすず書房、１９９２年、３７９－４１４ページ。）以下、Thomas S. Kuhn, "Second Thoughts on Paradaims"と略。

（３）

Thomas S. Kuhn, "Objectivity, Value Judgment, and Theory Choice, " in *The Essential Tension, Selected Studies in Scientific Tradition and Change*, Chicago/London:The University of Chicago Press, 1977, pp. 320-339. （佐野正博訳　「客観性、価値判断、理論選択」　安孫子誠也・佐野正博共訳　『本質的緊張２：科学における伝統と革新』所収　東京：みすず書房、１９９２年、４１５－４４７ページ。）以下、Thomas S. Kuhn, "Objectivity, Value Judgment, and Theory Choice"と略。

(4)

Thomas S. Kuhn, *The Structure of Scientific Revolutions*, pp. 52-53.

(5)

Ibid. p. 55.

(6)

Ibid. p. 56.

(7)

Ibid. pp. 67-68.

(8)

Ibid. p. 10.

(9)

Ibid. p. x.

(10)

Ibid. p. 176.

(11)

Ibid. p. 175.

(12)

Thomas S. Kuhn, "Second Thoughts on Paradaims, " p. 318.

(13)

Thomas S. Kuhn, *The Structure of Scientific Revolutions*, p. 52.

(14)

Ibid. p. 79.

(15)

Ibid. p. 82.

(16)

Ibid. p. 84.

(17)

Ibid. p. 148.

(18)

Ibid. p. 151.

(19)

Ibid. p. 158.

(20)

Ibid. p. 92.

(21)

Ibid. p. 94.

(22)

Ibid. pp. 96-97.

(23)

Ibid. p. 97.

（２４）

Ibid. p. 169.

（２５）

Ibid.

（２６）

Ibid. pp. 198-199.

（２７）

Ibid. p. 201.

（２８）

Ibid. p. 202.

（２９）

Thomas S. Kuhn, "Objectivity, Value Judgment, and Theory Choice, " p. 322.

（３０）

Ibid. p. 325.

（３１）

Ibid. p. 331.

（３２）

Thomas S. Kuhn, *The Structure of Scientific Revolutions*, p. 205.

（３３）

Ibid. p. 204.

第三節

（１）

Nelson Goodman, *Ways of Worldmaking*, Indianapolis:Hackett Publishing Company, 1978. （菅野盾樹・中村雅之共訳　『世界制作の方法』　東京：みすず書房、１９８７年。）以下、Nelson Goodman, *Ways of Worldmaking* と略。

（２）

Nelson Goodman, *Ways of Worldmaking*, p. 94.

（３）

Ibid.

（４）

Ibid. p. 1.

（５）

Nelson Goodman, *Fact, Fiction, and Forecast*, 4th ed. , Cambridge, Massachusetts/London, England:Harverd University Press, 1983. だだし、初版は、１９５４年。（雨宮民雄訳　『事実・虚構・予言』　東京：勁草書房、１９８７年。）以下、Nelson Goodman, *Fact, Fiction, and Forecast* と略。

（６）

Nelson Goodman, *Ways of Worldmaking*, p. 11.

（７）
Ibid. p. 12.
（８）
Ibid. p. 13. ここでの８音音階は、７音音階の誤りである。ただし、グッドマン自身が８音音階としているので、引用ではそのままにしておく。
（９）
Ibid. p. 6.
（１０）
Ibid. p. 97.
（１１）
Ibid. p. 68.
（１２）
Ibid. p. 106.
（１３）
Ibid. p. 22.
（１４）
Ibid. p. 2.
（１５）
Ibid. p. 104.
（１６）
Ibid. p. 3.
（１７）
Ibid. p. 4.
（１８）
Ibid. p. 5.
（１９）
Ibid. p. 110.
（２０）
Ibid. p. 116.
（２１）
Ibid. p. 119.
（２２）
Ibid. p. 94.
（２３）
Ibid. p. 122.
（２４）
Ibid. p. 126.
（２５）
ここで使われている〈投射可能〉という言葉はグッドマンの術語である。私は、投射可能性については、後で詳しく述べるようと思っているので、ここでは、大まかに、〈ある場

合から他の場合を推定するにふさわしい〉という意味でとらえて欲しい。

（２６）

Nelson Goodman, *Ways of Worldmaking*, p. 127.

（２７）

Nelson Goodman, *Fact, Fiction, and Forecast*, p. 87.

（２８）

Ibid. p. 101.

（２９）

Ibid. p. 120.

第三章

第一節

（１）

Donald Davidson, "On the Very Idea of a Conceptual Scheme, " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. , *Relativism, Cognitive and Moral*, Notre Dame, Indiana/London : University of Notre Dame Press, 1982, pp. 66-80. （土屋俊訳　「経験主義の第三のドグマ：概念枠とはそもそも何か」　『現代思想』　第１３巻第８号　（１９８５年)、１６９－１８３ページ。および、常俊宗三郎訳　「概念図式という観念そのものについて」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、１１８－１４５ページ。）以下、Donald Davidson, "On the Very Idea of a Conceptual Scheme"と略。また、この論文は、別の書物にも所収されている。Donald Davidson, "On the Very Idea of a Conceptual Scheme(1974), " in *Inquiries into Truth and Interpretation*, Oxford, UK:Clarendon Press, 1984. pp. 183-198. （植木哲也訳　「概念枠という考えそのものについて」　野本和幸・植木哲也・金子洋之・高橋要共訳　『真理と解釈』所収　東京：勁草書房、１９９１年、１９２－２１３ページ。）ただし、本稿では、引用の際に前者を使用する。したがって、引用ページの指示も前者に適用される。

（２）

Donald Davidson, "On the Very Idea of a Conceptual Scheme, " p. 68.

（３）

Ibid. p. 67.

（４）

Ibid. p. 70.

（５）

Ibid. p. 71.

（６）

Ibid. p. 74.

（７）

Ibid. p. 72.

（８）
Ibid. p. 74.
（９）
Ibid.
（１０）
Ibid. p. 75.
（１１）
Ibid. p. 76.
（１２）
Ibid.
（１３）
Ibid. p. 78.
（１４）
Ibid.
（１５）
Ibid. pp. 78-79.
（１６）
Ibid. p. 79.
（１７）
Ibid. p. 66.
（１８）
Ibid.

第二節
（１）
Hilary Putnam, *Reason, Truth and History*, Cambridge, UK/New York/Oakleigh:Cambridge University Press, 1981. （抄訳：野本和幸・中川大・三上勝生・金子洋之共訳　『理性・真理・歴史：内的実在論の展開』　東京：法政大学出版局、１９９４年。）以下、Hilary Putnam, *Reason, Truth and History* と略。
（２）
Hilary Putnam, "Philosophers and Human Understanding, " in *Realism and Reason:Philosophical Papars, Volume 3*, Cambridge, UK/New York/Oakleigh:Cambridge University Press, 1983, pp. 184-204. （佐藤労訳　「哲学者と人間知性」　飯田隆・金田千秋・佐藤労・関口浩喜・山下弘一郎共訳　『実在論と理性』所収　東京：勁草書房、１９９２年、２２１－２５２ページ。）以下、Hilary Putnam, "Philosophers and Human Understanding"と略。
（３）
Hilary Putnam, "Why Resaon Can't Be Naturalized ?, " in *Realism and Reason:Philosophical Papars, Volume 3*, Cambridge, UK/New York/Oakleigh:Cambridge University Press, 1983, pp. 229-247. （関口浩喜訳　「なぜ理性は自然化できないのか」　飯田隆・金田千秋・佐藤労・関口浩喜・山下弘一郎共訳　『実在論と理性』所収　東京：勁草書房、１９９２年、

２９１－３２１ページ。）以下、Hilary Putnam, "Why Resaon Can't Be Naturalized ?"と略。また、考察に際しては、C. Behan McCullagh, "The Intelligibility of Cognitive Relativism, " *Monist*, vol. 67, no. 3, (July, 1984), pp. 327-340. も参考にしている。マッカラは、その論文でパトナムの相対主義批判を批判している。それについては、拙著、横山幹子　「相対主義について」　『人間文化研究年報』（お茶の水女子大学人間文化研究科）　第２０号（１９９６年)、４４－５１ページ。参照。

（４）

Hilary Putnam, "Why Resaon Can't Be Naturalized ?, " p. 234.

（５）

Hilary Putnam, *Reason, Truth and History*, p. 122.

（６）

Hilary Putnam, "Philosophers and Human Understanding, " p. 200.

（７）

Hilary Putnam, "Why Resaon Can't Be Naturalized ?, " p. 234.

（８）

Hilary Putnam, *Reason, Truth and History*, p. 121.

（９）

Ibid. p. 122.

（１０）

Ibid.

（１１）

Ibid. p. 120.

（１２）

Ibid. p. 121.

（１３）

Ibid. p. 122.

（１４）

Ibid. p. 110. および、Hilary Putnam, "Philosophers and Human Understanding, " p. 188.

（１５）

Hilary Putnam, "Why Resaon Can't Be Naturalized ?, " p. 235.

（１６）

Hilary Putnam, "Philosophers and Human Understanding, " p. 191.

（１７）

Hilary Putnam, "Why Resaon Can't be Naturalized ?, " p. 240.

（１８）

Ibid. p. 234.

（１９）

Ibid.

（２０）

Hilary Putnam, *Reason, Truth and History*, p. 120.

（２１）

Ibid. p. 114. および、Hilary Putnam, "Philosophers and Human Understanding, " p. 192.

（２２）

Hilary Putnam, *Reason, Truth and History*, p. 119. および、Hilary Putnam, "Philosophers and Human Understanding, " pp. 196-197.

第三節

（１）

Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. , *Relativism, Cognitive and Moral,* Notre Dame, Indiana/London:University of Notre Dame Press, 1982. （常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』　東京：産業図書、１９８９年。）

（２）

Bernard Williams, "An Inconsistent Form of Relativism, " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. , *Relativism, Cognitive and Moral*, Notre Dame, Indiana/London:University of Notre Dame Press, 1982, pp. 171-174. （加茂直樹訳　「一貫性を欠く形の相対主義」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、３２１－３２７ページ。）以下、Bernard Williams, "An Inconsistent Form of Relativism" と略。

（３）

Bernard Williams, "The Truth in Relativism, " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. , *Relativism, Cognitive and Moral*, Notre Dame, Indiana/London:University of Notre Dame Press, 1982, pp. 175-185. （加茂直樹訳　「相対主義の含む真理」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、３２８－３４９ページ。）以下、Bernard Williams, "The Truth in Relativism"と略。

（４）

Bernard Williams, "The Truth in Relativism, " p. 175.

（５）

Bernard Williams, "An Inconsistent Form of Relativism, " p. 173.

（６）

Bernard Williams, "The Truth in Relativism, " p. 179.

（７）

Ibid. p. 180.

（８）

Ibid.

（９）

Ibid. p. 181.

（１０）

Ibid. p. 182.

第四章

第二節

（１）

W. V.（O.）Quine, "On the Very Idea of a Third Dogma, " in *Theories and Things*, Cambrige, Massachusetts/London, England:The Belknap Press of Harvard University Press, 1981, pp. 38-42.（高頭直樹訳　「いわゆる第三のドグマについて」　『現代思想』　第１６巻第８号（１９８８年)、２２８－２３２ページ。)

（２）

たとえば、W. V. O. Quine, *Word and Object*, p. 3.

参考文献

Audi, Robert et al. eds. *The Cambridge Dictionary of Philosopy*. Cambridge, UK/New York/Oakleigh:Cambridge University Press. 1995.

Baker, G. P. and Hacker, P. M. S. *Wittgenstein:Rules, Grammar and Necessity*(*An Analytical Commentary on the Philosophical Investigations;vol. 2*). Oxford, UK:Basil Blackwell. 1985.

Blackburn, Simon. *The Oxford Dictionary of Philosophy*. Oxford, UK/New York:Oxford University Press. 1994.

Craig, Edward and Floridi Luciano eds. *Routledge Encyclopedia of Philosophy CD-ROM*. London, England/New York:Routledge. 1998.

Davidson, Donald. *Essays on Actions and Events*. Oxford, UK:Clarendon Press. 1980. （抄訳：Ｄ．デイヴィドソン著　服部裕幸・柴田正良共訳　『行為と出来事』　東京：勁草書房、１９９０年。）

Davidson, Donald. *Inquiries into Truth and Interpretation*. Oxford, UK:Clarendon Press. 1984. （抄訳：ドナルド・デイヴィドソン著　野本和幸・植木哲也・金子洋之・高橋要共訳　『真理と解釈』　東京：勁草書房、１９９１年。）

Davidson, Donald. "On the Very Idea of a Conceptual Scheme. " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. *Relativism, Cognitive and Moral*. pp. 66-80. （ドナルド・デイヴィッドソン著　土屋俊訳　「経験主義の第三のドグマ：概念枠とはそもそも何か」　『現代思想』　第１３巻第８号　（１９８５年)、１６９－１８３ページ。および、ドナルド・デイヴィドソン著　常俊宗三郎訳　「概念図式という観念そのものについて」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、１１８－１４５ページ。）

Davidson, Donald. "On the Very Idea of a Conceptual Scheme(1974). " in *Inquiries into Truth and Interpretation*. pp. 183-198. （ドナルド・デイヴィドソン著　植木哲也訳　「概念枠という考えそのものについて」　野本和幸・植木哲也・金子洋之・高橋要共訳　『真理と解釈』所収　東京：勁草書房、１９９１年、１９２－２１３ページ。）

Doppelt, Gerald. "Kuhn's Epistemological Relativism:An Interpretation and Defense. " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. *Relativism, Cognitive and Moral*. pp. 113-146. （ジェラルド・ドッペルト著　戸田省二郎訳　「クーンの認識論的相対主義—解釈と弁護—」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、２１０－２７５ページ。）

Goodman, Nelson. *Fact, Fiction, and Forecast*. 4th ed. Cambridge, Massachusetts/London, England:Harverd University Press, 1983.（1st. ed. 1954.）（ネルソン・グッドマン著　雨宮民雄訳　『事実・虚構・予言』　東京：勁草書房、１９８７年。）

Goodman, Nelson. *Ways of Worldmaking*. Indianapolis:Hackett Publishing Company. 1978.（ネルソン・グッドマン著　菅野盾樹・中村雅之共訳　『世界制作の方法』　東京：みすず書房、１９８７年。）

Harré, Rom and Krausz, Michael. *Varieties of Relativism*. Oxford, UK/Cambridge, Massachusetts: Blackwell. 1996.

Harris, James F. *Against Relativism, A Philosophical Defense of Method.* Chicago and La Salle, Illinois:Open Court. 1992.

廣松渉・子安宣邦・三島憲一・宮本久雄・佐々木力・野家啓一・末木文美士編　『岩波哲学・思想辞典』　東京：岩波書店、１９９８年。

古田智久　「翻訳の不確定性とは何か」　『科学基礎論研究』　第九十号（１９９８年)、２１－２６ページ。(vol. 25. no. 2. (1998). pp. 83-88.)

古田智久　「ホーリズムの諸相」　『科学基礎論研究』　第八十四号（１９９５年)、２３－２９ページ。(vol. 22. no. 2. (1995). pp. 79-85.)

飯田隆　『言語哲学大全Ⅱ：意味と様相（上)』　東京：勁草書房、１９８９年。

伊藤邦武　「パラダイム論の展開」　内井惣七・小林道夫編　『科学と哲学：論理・物理・心・言語』所収　京都：昭和堂、１９８８年、１６１－２１１ページ。

加藤尚武　「『パラダイム相対主義』批判」　『現代思想』　第１３巻８号　（１９８５年)、２１６－２２９ページ。

小林道夫　「物理学の哲学的諸問題」　内井惣七・小林道夫編　『科学と哲学：論理・物理・心・言語』所収　京都：昭和堂、１９８８年、５３－１０９ページ。

Kuhn, Thomas S. "Objectivity, Value Judgment, and Theory Choice. " in *The Essential Tension, Selected Studies in Scientific Tradition and Change*. pp. 320-339. （トーマス・クーン著　佐野正博訳　「客観性、価値判断、理論選択」　安孫子誠也・佐野正博共訳　『本質的緊張２：科学における伝統と革新』所収　東京：みすず書房、１９９２年、４１５－４４７ページ。)

Kuhn, Thomas S. "Second Thoughts on Paradaims. " in *The Essential Tension, Selected Studies in Scientific Tradition and Change*. pp. 293-319. （トーマス・クーン著　佐野正博訳　「パラダイム再考」　安孫子誠也・佐野正博共訳　『本質的緊張２：科学における伝統と革新』所収　東京：みすず書房、１９９２年、３７９－４１４ページ。）

Kuhn, Thomas S. *The Essential Tension, Selected Studies in Scientific Tradition and Change*. Chicago/London:The University of Chicago Press. 1977. （抄訳：トーマス・クーン著　安孫子誠也・佐野正博共訳　『本質的緊張２：科学における伝統と革新』　東京：みすず書房、１９９２年。）

Kuhn, Thomas S. *The Structure of Scientific Revolutions*. 3rd ed. Chicago/London n. p. :The University of Chicago Press. 1996. (1st. ed. 1962). （トーマス・クーン著　中山茂訳　『科学革命の構造』　東京：みすず書房、１９７１年。）

Mandelbaum, Maurice. "Subjective, Objective, and Conceptual Relativisms. " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. *Relativism, Cognitive and Moral.* pp. 34-61. （モーリス・マンデルバウム著　常俊宗三郎訳　「主観的、客観的、および概念的相対主義」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、６０－１１０ページ。）

松本晋　「アメリカにおける論理実証主義とその批判的受容」　神野慧一郎編　『現代哲学のバックボーン』所収　東京：勁草書房、１９９１年、１６９－１９２ページ。

McCullagh, C. Behan. "The Intelligibility of Cognitive Relativism. " *Monist*. vol. 67. no. 3. (July, 1984). pp. 327-340.

Meiland, Jack W.　and Krausz, Michael, eds. *Relativism, Cognitive and Moral.* Notre Dame, Indiana/London:University of Notre Dame Press. 1982. （ジャック・W・メイランド、マイケル・クラウス編　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』
東京：産業図書、１９８９年。）

美濃正　「意味論」　神野慧一郎編　『現代哲学のバックボーン』所収　東京：勁草書房、１９９１年、２２３－２４４ページ。

森本浩一　「ホーリズムの帰趨」　『現代思想』　第１６巻第８号（１９８８年)、１５４－１７３ページ。

野家啓一　「プラグマティズムの帰結：『ノイラートの船』の行方」　『分析哲学とプラグマティズム（岩波講座現代思想７)』所収　東京：岩波書店、１９９４年、２７１－３０１ページ。

野家啓一　「『ロジカル・ネガティヴィズム』の帰趨」　『現代思想』　第１６巻第８号（１９８８年)、　８０－９３ページ。

野家啓一　「『知のネットワーク』と『パラダイム』」　『現代思想』　第１３巻第８号（１９８５年)、２３０－２４４ページ。

野本和幸　「意味と真理の探求」　『分析哲学とプラグマティズム（岩波講座現代思想７)』所収　東京：岩波書店、１９９４年、１２３－１５１ページ。

野本和幸　『意味と世界：言語哲学論考』　東京：法政大学出版局、１９９７年。

野本和幸　『現代の論理的意味論』　東京：岩波書店、１９８８年。

大庭健　「科学的客観性と経験的・人間的 SLACK：ポスト近代への草の根的な確認の試み」　『現代思想』　第１６巻第８号　（１９８８年)、９４－１１０ページ。

Poincaré, H.　W. J. G. , trans. *Science and Hypothesis*. New York:Dover Publications, INC. 1952.（ポアンカレ著　河野伊三郎訳　『科学と仮説』　東京：岩波書店、１９３８年。)

Putnam, Hilary. "Philosophers and Human Understanding. " in *Realism and Reason:Philosophical Papars, Volume 3*. pp. 184-204.（ヒラリー・パトナム著　佐藤労訳　「哲学者と人間知性」飯田隆・金田千秋・佐藤労・関口浩喜・山下弘一郎共訳　『実在論と理性』所収　東京：勁草書房、１９９２年、２２１－２５２ページ。)

Putnam, Hilary. *Realism and Reason:Philosophical Papars, Volume 3*. Cambridge, UK/New York/Oakleigh:Cambridge University Press. 1983.（抄訳：ヒラリー・パトナム著　飯田隆・金田千秋・佐藤労・関口浩喜・山下弘一郎共訳　『実在論と理性』　東京：勁草書房、１９９２年。)

Putnam, Hilary. *Reason, Truth and History*. Cambridge, UK/New York/Oakleigh:Cambridge University Press. 1981.（抄訳：ヒラリー・パトナム著　野本和幸・中川大・三上勝生・金子洋之共訳　『理性・真理・歴史：内的実在論の展開』　東京：法政大学出版局、１９９４年。)

Putnam, Hilary. "Why Resaon Can't be Naturalized ?. " in *Realism and Reason:Philosophical Papars, Volume 3*. pp. 229-247.（ヒラリー・パトナム著　関口浩喜訳　「なぜ理性は自然化できないのか」　飯田隆・金田千秋・佐藤労・関口浩喜・山下弘一郎共訳　『実在論と理性』所収　東京：勁草書房、１９９２年、２９１－３２１ページ。)

Quine, W. V. (O.) "Epistemology Naturalized. " in *Ontological Relativity and Other Essays.* pp. 69-90. (W・V・O・クワイン著　伊藤春樹訳　「自然化された認識論」　『現代思想』第１６巻第８号　（１９８８年)、４８－６３ページ。)

Quine, W. V. (O.) "Existence and Quantification. " in *Ontological Relativity and Other Essays.* pp. 91-113.

Quine, W. V. O. *From a Logical Point of View, 9 Logico-Philosophical Essays*. 2nd rev. ed. Cambrige, Massachusetts/London, England:Harvard University Press. 1961. (W・V・O・クワイン著　飯田隆訳　『論理的観点から：論理と哲学をめぐる九章』　東京：勁草書房、１９９２年。)

Quine, W. V. O. "Logic and the Reification of Universals. " in *From a Logical Point of View, 9 Logico-Philosophical Essays*. pp. 102-129. (W・V・O・クワイン著　飯田隆訳　「論理学と普遍者の物化」　飯田隆訳　『論理的観点から：論理と哲学をめぐる九章』所収　東京：勁草書房、１９９２年、１５５－１９７ページ。)

Quine, W. V. (O.) "Ontological Relativity. " in *Ontological Relativity and Other Essays.* pp. 26-68.

Quine, W. V. (O.) *Ontological Relativity and Other Essays*. New York:Columbia University Press. 1969.

Quine, W. V. (O.) "On the Very Idea of a Third Dogma, " in *Theories and Things*, pp. 38-42. (W・V・O・クワイン著　高頭直樹訳　「いわゆる第三のドグマについて」　『現代思想』第１６巻第８号　（１９８８年)、２２８－２３２ページ。)

Quine, W. V. O. "On What There is. " in *From a Logical Point of View, 9 Logico-Philosophical Essays*. pp. 1-19. (W・V・O・クワイン著　飯田隆訳　「なにがあるのかについて」　飯田隆訳　『論理的観点から：論理と哲学をめぐる九章』所収　東京：勁草書房、１９９２年、１－２９ページ。)

Quine, W. V. (O.) *Pursuit of Truth*. rev. ed. Cambrige, Massachusetts/London, England:Harvard University Press. 1992. (1st ed. 1990.)(W・V・クワイン著　伊藤春樹・清塚邦彦共訳　『真理を追って』　東京：産業図書、１９９９年。)

Quine, W. V. (O.) "Relativism and Absolutism. " *Monist*. vol. 67. no. 3. (July, 1984). pp. 293-296.

Quine, W. V. (O.) *Theories and Things*, Cambrige, Massachusetts/London, England:The Belknap Press of Harvard University Press, 1981.

Quine, W. V. O. "Two Dogmas of Empiricism. " in *From a Logical Point of View, 9 Logico-Philosophical Essays*. pp. 20-46. （W・V・O・クワイン著　飯田隆訳　「経験主義のふたつのドグマ」　飯田隆訳　『論理的観点から：論理と哲学をめぐる九章』所収　東京：勁草書房、１９９２年、３１－７０ページ。）

Quine, W. V. O. *Word and Object*. Cambridge, Massachusetts:The MIT Press. 1960. （W・V・O・クワイン著　大出晃・宮館恵共訳　『ことばと対象』　東京：勁草書房、１９８４年。）

Ｇ．シャピロ著　新関暢一訳　『創造的発見と偶然：科学におけるセレンディピティー』　東京：東京化学同人、１９９３年。

柴田正良　「経験主義の変貌と知識の全体論」　『分析哲学とプラグマティズム（岩波講座現代思想７）』所収　東京：岩波書店、１９９４年、２４３－２６９ページ。

Siegel, Harvey. *Relativism Refuted, A Critique of Contemporary Epistemological Relativism (Synthese Library Volume 189)*. Dordrecht/Boston/Lancaster/Tokyo:D. Reidel Publishing Company. 1987.

Swoyer, Chris. "True For. " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. *Relativism, Cognitive and Moral*. pp. 84-108. （クリス・スウォイヤー著　戸田省二郎訳　「…にとっての真」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、１５２－２０１ページ。）

玉虫文一編　『科学史入門：七人の先駆者を中心として』　東京：培風館、１９７９年。

丹治信春　『言語と認識のダイナミズム：ウィトゲンシュタインからクワインへ』　東京：勁草書房、１９９６年。

丹治信春　「クワインにおける理論と言語」　『現代思想』　第１６巻第８号（１９８８年）、６４－７９ページ。

Williams, Bernard. "An Inconsistent Form of Relativism. " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. *Relativism, Cognitive and Moral*. pp. 171-174. （バーナード・ウィリアムズ著　加茂直樹訳　「一貫性を欠く形の相対主義」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、３２１－３２７ページ。）

Williams, Bernard. "The Truth in Relativism. " in Jack W. Meiland and Michael Krausz, eds. *Relativism, Cognitive and Moral*. pp. 175-185. （バーナード・ウィリアムズ著　加茂直樹訳「相対主義の含む真理」　常俊宗三郎・戸田省二郎・加茂直樹共訳　『相対主義の可能性』所収　東京：産業図書、１９８９年、３２８－３４９ページ。）

Wittgenstein, Ludwig. "Philosophische Untersuchungen. " in *Ludwig Wittgenstein Werkausgabe Band Ⅰ*. Frankfurt am Main:Suhrkamp Verlag. 1984. pp. 225-580.（G. E. M. Anscombe, trans. *Philosophical Investigations*. 2nd ed. Oxford, UK:Basil Blackwell. 1958. 、ウィトゲンシュタイン著　藤本隆志訳　「哲学探究」　『ウィトゲンシュタイン全集』第８巻　東京：大修館書店　１９７６年。および、ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタイン著　黒崎宏訳・解説『『哲学的探求』読解』　東京：産業図書　１９９７年。）

八杉龍一　『図解　科学の歴史』　東京：東京教学社、１９８８年。

横山幹子　「相対主義について」　『人間文化研究年報』（お茶の水女子大学人間文化研究科）　第２０号　（１９９６年)、４４－５１ページ。

横山輝男　「相対主義と真理問題：ポスト・パラダイムの科学論」　『現代思想』第１３巻８号　（１９８５年)、１０２－１１１ページ。